八沢浦の干拓

八沢浦の干拓が始まる前は、この辺りは今の松川浦のようなところでした。昔から塩づくりが行われたところで、日照りの時は「テッカリ千俵」と言われ一日に千俵もの塩がとれたので、相馬の殿様は、塩づくりをすすめていました。

明治時代になり排水が不十分なため、水害を受け塩づくりも昔のような賑わいもなくなり、人々はこの八沢浦を干拓し水田を作る話が次第に持ち上がりました。

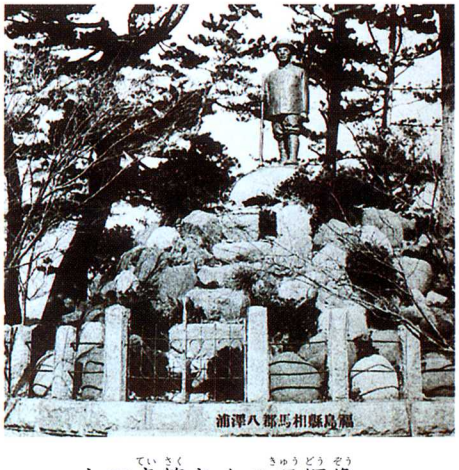
明治39年7月11日に左納栄三郎さんと山田貞策さんの二人が八沢浦を調査し、干拓が可能との結論になり、明治40年12月9日に干拓工事が始まりました。

大変な苦労をされ明治41年には、水稲の作付けを29.7ヘクタール、明治43年には133.7ヘクタールの作付けに成功するまでになりました。

海水を排水して、水田にする作業は、今のように機械のなかった当時、容易なことではありませんでした。特に海に排水するのが難工事で、完成するまでに11名の尊い犠牲者が出るなど大変な苦労の連続でした。

その当時の人々の苦労があって今は、水田290ヘクタール他に宅地、道路などを含めると350ヘクタールの土地となっています。

山田貞策さんは、岐阜県生まれの人で、大変な農地を所有し当時の県議会議員をされていた人です。人々は「山田貞策」さんの偉業を讃え、磯の上地内に石碑と銅像を建てました。しかし、戦争中に国に供出されました。また現在は干拓事務所のそばに山田神社をまつり、今に引き継がれています。



山田貞策さんの旧銅像

山田貞策をまつった山田神社